

# 踏み跡 <My Mountains>

会津	荒海川程窪沢平滑沢廻行	No.176
----	-------------	--------

いつ頃からだっただろうか、会津の山に興味を持ち始めて色々資料を手繰っては調べまくっていた。折から、会社の(所属部署の)秋の慰安旅行が川治温泉と決まった。ならばついでにひと山という気になり、山行プランを検討。その結果、金曜日の夜行列車を使い、会津若松経由で七ヶ岳に入ってみようということになった。翌日(土曜日)下山後はバスに一時間半ほど乗り山王峠を越えて川治温泉へ、そして慰安旅行に合流という筋書き。

草野さんを誘ったらOKとのことで、二人で出発。この山行では途中のメモが少ししか取られていなかったため、脳裏に焼きついた記憶を合わせて書いてみた。予想以上に色々な情景やその時の気持ちが蘇ってくるもの。しかし、どうにもならないことが一つだけ残ってしまった。6月何日だったか日付のメモがない。この文章では日付はXX日とし書くことにした。



昭和48年6月XX日

奥那須や会津の山へ入るには東武線で鬼怒川温泉に入りバスで峠越えをすることが多かったが、今回は金曜の夜出発のパターンなので、会津若松経由でぐるっと回ることになった。  
上野発 23時54分急行ばんだい6号。

昭和48年6月XY日

会津若松着 5時27分。会津線会津滝の原行は5時30分発。  
糸沢で下車 7時52分。会津西街道をしばらく南下して、羽塩で大川の対岸に渡り左手に程窪沢を見下ろしながら岩藤山の裾野を巻き込むように進んでいく。  
程窪沢に沿って歩くようになる頃から兩岸の尾根が迫り始めて、谷間を歩いているという実感が増してくる。ガタ沢出合いを過ぎたあたりから程窪沢の右岸にわたりしばらく進むと林道が終わり、踏み跡の世界に入る。林道終点からしばらく歩くと平滑沢の出合いに到着。平滑沢はその名の通り小さなナメ滝の連続で、スケールは小さいが美しい沢だ。  
帰りの鬼怒川温泉行のバスに乗り遅れると会社の慰安旅行に合流できなくなってしまう。時計を見ながら沢歩きを楽しみ、適当なところで折り返すことにした。もう少し沢をつめて行けばザレと岩場を通過して七ヶ岳に辿り着ける筈だったが、残念。  
会津田島 14時35分発のバスが羽塩を通過する時刻を15時頃と想定して、元のコースに戻った。  
羽塩から予定通りのバスに乗ることができて川治温泉に16時35分に無事到着し、登山靴にサブザックのいでたちで慰安旅行に合流した。

以上

\*後日メモ：川治温泉の慰安旅行の翌日は好天に恵まれ、那須山麓を楽しんで帰ったと記憶している。  
この両県が金曜・土曜に曇りまたは晴れで、日曜日が快晴だった週末はいつだろう？  
昭和48年6月の福島県・栃木県の天気の実績を調べてみた。  
6月23日(土)～6月24日(日)がこの山行の日だったのではないかと推測した。